

第4回桐生市市史編さん審議会 議事録

日 時：令和5年10月24日（火）午後1時30分～午後3時

会 場：桐生市役所5階501会議室

出席者：別添名簿のとおり

1. 開会

2. 新委員の紹介

- ・令和5年4月11日付にて新居理恵委員を新規委嘱したことに伴い、事務局から新居委員の紹介を行い、委員から挨拶をいただいた。

3. 会長あいさつ

4. 報告事項

- ・令和4年度下半期から令和5年度上半期の事業報告について
 - ・事務局から、編集委員及び調査協力委員の委嘱状況、編さん審議会、編集委員会の開催状況及び専門部会の調査活動状況等について説明した。

【主な質疑応答】

[委員]

- ・「桐生市史研究」の版型はどうか。「群馬県史研究」と同じサイズか。
- ・年に1回の発行を予定しているのか。

[事務局]

- ・A5版を予定している。「群馬県史研究」と同じサイズである。現在のところ年1回の発行を予定している。

5. 審議事項

- ・第一次『新編 桐生市史』構想イメージについて
 - ・事務局から「資料編1 原始古代」、「資料編2 中世」、「資料編3 近世1」、「資料編4 近世2」、「資料編5 近現代」、「特別編 民俗」、「特別編 自然」の構想イメージについて説明した。

【主な質疑応答】

[委員]

- ・構想イメージを見ると各巻の組み立てが統一されていないように思える。まだその段階ではないということか。

[事務局]

- ・各専門部会の調査の進み方が違うので、まだ統一出来る段階にはない。今後、編集作業が進む段階ですり合わせをしていくことになるかと思う。

[委員]

- ・サブタイトルについては、もう少し後回しにして、一般の人が手に取りやすいようなアイデアを入れていただきたい。

- ・近世の資料編に建築・彫刻、あるいは寺院・神社とあり、特別編の建造物とあるが、兼ね合いはどのように考えているのか。

[委員] (監修者)

- ・近世資料編では古文書などの文字資料を扱い、特別編では実際にある建物や彫刻そのものを扱うなどのすみ分けをしたいと考えている。

[事務局]

- ・サブタイトルについては、ご意見のとおり掲載内容にふさわしい、内容がわかりやすくインパクトのあるものをつけるべきと思う。

[委員]

- ・近世資料編の町村絵図は、本編に刷り込みになるのか。それとも別刷りか。
- ・村芝居には、農村歌舞伎も入るのか。

[委員] (監修者)

- ・町村絵図は、どんな状態のものが残っているかわからないので、刷り込みか別刷りになるかは、まだ考えていない。村芝居には、農村歌舞伎は入る。

[委員]

- ・近現代資料編には、近隣の町村のことも入れるのか。例えば愛国飛行場など。

[委員]

- ・桐生市には、姉妹都市や重要文化財、渡良瀬川の9つの橋など特徴的なものがたくさんある。もし可能であれば各専門部会の先生方が審議会に出席し、現在の調査研究状況を話してもらい、議論が出来たらと思う。

[事務局]

- ・今回は、各専門部会から上げてもらったことを報告させていただいたが、次回以降は、各専門部会長から審議会ではこれだけは話してもらいたいといったことも聞き取ったうえで、報告させていただけたらと思う。

[委員]

- ・古道はどここの分野にはいるのか。

[事務局]

- ・どの時代の道かによるが、各時代の交通分野のなかで取り上げることになるかと思う。どちらかというに通史編で取り上げることになるかとも思う。

[委員]

- ・今回提示された構想イメージを見ると、刊行年が早いものから先に編さん作業に入っていると思うが、桐生の織物は年々産地規模が縮小しており、令和17年の刊行までには桐生の織物はなくなってしまう懸念がある。「織都桐生」という言葉があるが、いつ頃から呼ばれるようになったか分かる資料もない。明らかにしていくべきと思う。織物業界には、従事者が高齢になり、事業承継も出来ない事業主がたくさんいる。今、ヒアリング調査をしておかないと書けなくなってしまうし、記述することによって、また新しいステップも生れるように思う。市史の編さんに期待する。

[事務局]

- ・織物業界の高齢化は明らかであり、機械の動かし方を映像で記録するとか、働いている方にインタビューするなど、出来ることはしておかなければならないと考えている。特別版『桐生の織物』にはそういったところも採録することを目指しているところである。

[委員]

- ・今回の構想イメージに『自然編』『民俗編』以外の特別編は入っていないが何か理由はあるか。

[事務局]

- ・調査する部会がまだ発足していないからではあるが、部会がないからと言って何もしていないわけではなく、既に『建造物』の調査をしていただいている先生もいる。出来るものから調査を進めているといった現状である。

[会長]

- ・専門部会があるもの、まだ発足していないものがあるが、基本計画のなかの刊行スケジュールでは、令和4年度から令和8年度まではすべての分野で調査研究を行う期間となっているので、鋭意行っているということによろしいか。

[事務局]

- ・新出の資料などについては、待つことなくすぐに調査している状況にある。

[委員（監修者）]

- ・今回ご意見いただいたことについては、監修者として編集委員会において委員にはしっかり伝えようと思う。構想イメージについては、今後の調査研究によって変更することもある。キーワードについても同様に変わっていくことがあると思う。編集委員の先生方が、まずはこの構想イメージを持ちながら専門部会において調査研究を進めているということであり、ご理解いただきたい。

[会長]

- ・今回提示されたものは、あくまでも構想イメージであり、今後、大きく変わることがあるかと思う。また、今回は資料編であり、通史編と違ってトピック的なテーマは扱いづらい面もあるかと思うので、そういったものは通史編で扱われることになるかと思う。ただし、イメージとはいえ、提示しているものに大きな変更があれば審議会において随時報告いただけると理解している。今回提示されたものは、資料編及び専門部会が発足している特別編のイメージであり、そのまま目次となるものではないことを前提としつつも、委員の皆さんには、おおよそそのようなイメージで調査研究が進んでいることをご確認いただき、ご意見、ご提案をたくさんいただいたと思う。

[事務局]

- ・補足させていただきたい。今回報告させていただいた構想イメージの中にも難しい言葉がたくさんあると思う。昨年度の審議会において誰でも使いやすいやさしい記述を心掛けてほしいとのご意見をたくさんいただいている。編集委

員の先生方もそのことは十分承知している。特に監修者の佐藤先生は「古文書へのいざない」という項目を入れるなど、やさしくわかりやすくといったことに常に気を遣っていただいているので、その方向で進めていただければと思う。

[会長]

- ・この構想イメージのなかでは、やはり近世資料編が視点もわかりやすく表現されていると感じた。「村々と桐生新町」など、現在の中心市街地だけでなく、周辺部の歴史も入ることが分かる記述である。他の資料編でも市史に期待される部分は網羅されていると思うが、メリハリをつけたものも今後検討されていくと思うので、今回のご意見を踏まえて研究を深めていただきたい。

6 その他

【主な質疑応答】

[委員]

- ・桐生文化史談会の郷土史講座にご参加願いたい。
- ・近現代部会の調査の参考にするため、トピックがあれば紹介してほしい。

[委員]

- ・近現代の分野になるかと思うが、刊行までかなりの期間があるので、行政がこれから取り組む施策、例えば小・中学校の統廃合なども入るのか。

[事務局]

- ・いわゆる現在進行形のものについては、自治体史という観点から考えると、どこまで取り込むかは難しい課題であり、先生方も悩む部分と思う。一定の評価がされている時代までの記述は入ると思うが、それ以降のものを、どんなふうに執筆するかは難しいところかと思う。

[委員]

- ・確定した部分については取り込めるのではないかと。難しい問題とは思いますが。

[委員]

- ・どこまで取り込むかは、近現代部会で検討したのち審議会にもお諮りするものと思う。まだそこまでは進んでいないので、これからの課題と考える。

[事務局]

- ・他の自治体史でも現代編がどこまで記述されているかは、まちまちである。例えば、平成に入るまでとか、東日本大震災まで記述されているところもあるなど難しいところである。今後、検討すべき難しい課題と思う。

[委員]

- ・どこかで区切らないと出版がいつまでも出来なくなる。

[事務局]

- ・今後、編集委員会でも話し合うことになるだろうし、審議会でもその都度お話しさせていただきたい。

[委員]

- ・どこかの段階で補遺編みたいなものも必要となるだろう。

[事務局]

- ・そういった部分も含めて検討していくことになるかと思う。

[委員]

- ・学校の授業で桐生の歴史に触れることなく大人になってしまったと実感する。この審議会ですべて耳にするような項目もある。桐生で教育を受けている子どもたちに桐生の歴史のことを授業で触れてもらいたいと思う。日本史全体の流れの中で桐生市のことにも触れてもらえるような授業があったらいいと思う。学校のカリキュラムや授業の進め方もあって難しいとも思うが、出来やすい環境を整えていけたらいいなと感じる。授業で触れたことで子どもたちの関心が高まり、調べてみようということになれば喜ぶべきことである。
- ・編さん基本計画のなかに「デジタル記憶媒体の活用も検討します」とあるが、織機が動いているところを動画で撮り、QRコードを載せて見られるようにすることや、からくり人形などもデジタル画面で見られるようにしておく子どもたちの興味や理解が深まると思う。工夫していただけたらと思う。

[委員]

- ・今、子どもたちは1人1台タブレットを持っているので、QRコードをかざして動画をすぐに見ることが出来る。そういうものもあれば授業でも十分活用できる。中学校の学習指導要領でも身近な地域のことには触れるという言葉が入っている。歴史の学習のなかで身近な地域の歴史について調べたり、まとめたり、表現するといった項目もある。そういったところでも活用できる。

[委員]

- ・自然編などは理科の授業でも活用出来るようになればいいと思う。

[会長]

- ・編さん基本計画のなかの刊行計画には、「子どもから大人まで手に取りやすく読みやすい普及版の刊行も検討する」となっている。ぜひ実現してほしい。群馬大学の学生に桓武天皇の年号は延暦であるが、山上多重塔の銘文にある年号と同じであり、桓武天皇の時代の史資料が桐生にもあると説明するとびっくりする。こうしたことは、子どもの頃に習ってほしいと思う。今の子どもたちはタブレット端末を自由自在に使いこなしているので、興味を持ったらいつでも見ることが出来る、これは大事なことである。また、現代編をどこまで切るかということは難しいということが現状と思うが、重要な課題であるからこそ難しいことと思う。皆さん貴重なご意見をありがとうございました。

[委員]

- ・和暦と西暦の記述はどうか。

[会長]

- ・一般的には記述の方針を策定するものと思うが。

[事務局]

- ・資料編に載せる書状などは和暦で書かれているので、年号に続いて括弧で西暦を付けるといったことが原則になるかと思う。

[委員]

- ・最近、市内では銭湯とか武道館などの古い建物が壊されている。こうした建物は壊される前に撮影をしているのか。

[事務局]

- ・桐生国武館は撮影した。また、建造物の調査をお願いしている先生が図面と記録写真と簡単な報告書も作っている。

[委員]

- ・これからもそういうところが出てくるのではないか。

[事務局]

- ・桐生国武館は事前に情報をもらったので出向いて撮影できた。これからも情報があればきちんと記録に残したいと思う。

その他、今後のスケジュールについて事務局から説明した。

7 閉会

以上